

注3

大学番号：114

[平成29年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

届出

東洋大学大学院 情報連携学研究科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人東洋大学
平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 赤羽台事務課

職名・氏名 課長 アツミ 渥美 モトヤス 元康

電話番号 03-5924-2603

（夜間） 03-5924-2600

F A X 03-5924-2700

e-mail ml-iniad-em@toyo.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成30年3月26日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報連携学研究科

<情報連携学専攻>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1-4
2. 授業科目の概要	5-8
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	10-17
5. 教員組織の状況	18-25
6. 留意事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27-29

添付資料

- ①建築等設置計画変更書
- ②校地面積変更書
- ③東洋大学高等教育推進センター規程
- ④設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人東洋大学

(2) 大学名

東洋大学大学院

(3) 大学の位置

(〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20)

〒115-0053 東京都北区赤羽台1-7-11

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フクカワ シンジ) 福川 伸次 (平成24年12月)		
学長	(タケムラ マキオ) 竹村 牧男 (平成21年9月)		
研究科長	(ハナキ ケイスケ) 花木 啓祐 (平成29年4月)		
専攻長	(ゴトウ ナオヒロ) 後藤 尚弘 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報連携学研究科 情報連携学専攻(修士課程) 修士(情報連携学)	工学関係	2年	20人	40人	基礎となる学部等 情報連携学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	平成28年度	平成29年度	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	/	20人		20人		0.15倍	平成30年度その他の学期については、平成30年5月1日現在で志願者・受験者・合格者・入学者はなし。	
志願者数		(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]			
受験者数		6 (3) [1]	1 (-) [1]	5 (3) [2]	(-) [-]			
合格者数		3 (3) [-]	- (-) [-]	3 (3) [-]	(-) [-]			
B 入学者数		3 (3) [-]	- (-) [-]	3 (3) [-]	(-) [-]			
入学定員超過率 B/A		0.15		0.15				

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	/		3	—	3	—	
			[—]	[—]	[—]	[—]	
			(—)	(—)	(—)	(—)	
2年次						3	
				[—]	[—]		
				(—)	(—)		
3年次							
計			3		6		
			[—]		[—]		
			(—)		(—)		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で**記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成27年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
平成28年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	3 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	6 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
合計	9 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<情報連携学研究科 情報連携学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	情報連携学研究法Ⅰ	1前	2			8						
	情報連携学研究法Ⅱ	1後	2			1						
	情報連携学研究法Ⅲ	1前	2			1						
	情報連携学研究法Ⅳ	1後	2			1						
専門科目	ビジネス・インキュベーション特論Ⅰ	1・2①		2		1						
	ビジネス・インキュベーション特論Ⅱ	1・2②		2		1						
	データ・サイエンス特論Ⅰ	1・2③		2		1						
	データ・サイエンス特論Ⅱ	1・2④		2		1						
	インフラ・サービス特論Ⅰ	1・2①		2		1	1				1	
	インフラ・サービス特論Ⅱ	1・2②		2		2					1	
	クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ	1・2③		2		2						
	クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ	1・2④		2			2					
	コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ	1・2①		2		1	1					
	コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ	1・2②		2		1	1					
	コンピュータ・ネットワーク特論Ⅰ	1・2③		2		1						
	コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ	1・2④		2		1						
	デジタル・デザイン特論Ⅰ	1・2①		2		1						
	デジタル・デザイン特論Ⅱ	1・2②		2		1						
ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅰ	1・2③		2		1							
ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅱ	1・2④		2		1							
研究指導科目	情報連携研究指導Ⅰ	1通	4			13	5					
	情報連携研究指導Ⅱ	1・2通	4			13	5					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	情報連携学研究法Ⅰ	1前	2					11	2			
	情報連携学研究法Ⅱ	1後	2			1						
	情報連携学研究法Ⅲ	1前	2			1						
	情報連携学研究法Ⅳ	1後	2			1						
専門科目	ビジネス・インキュベーション特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	ビジネス・インキュベーション特論Ⅱ	1・2後		2		1						
	データ・サイエンス特論Ⅰ	1・2前		2		1		1				
	データ・サイエンス特論Ⅱ	1・2後		2		1		1				
	インフラ・サービス特論Ⅰ	1・2前		2		1	1					
	インフラ・サービス特論Ⅱ	1・2後		2		2						
	クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ	1・2前		2		2						
	クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ	1・2後		2			1	1				
	コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ	1・2前		2		1	1					
	コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ	1・2後		2		2	1					
	コンピュータ・ネットワーク特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ	1・2後		2		2						
	デジタル・デザイン特論Ⅰ	1・2前		2		1						
	デジタル・デザイン特論Ⅱ	1・2後		2		1						
ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅰ	1・2前		2		1							
ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅱ	1・2後		2		1							
研究指導科目	情報連携研究指導Ⅰ	1前	2			15	6					
	情報連携研究指導Ⅱ	1後	2			15	6					
	情報連携研究指導Ⅲ	2前	2			15	6					
	情報連携研究指導Ⅳ	2後	2			15	6					

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	情報連携学研究法Ⅰ	1前	2			11	2					
	情報連携学研究法Ⅱ	1後	2			1						
	情報連携学研究法Ⅲ	1前	2			1						
	情報連携学研究法Ⅳ	1後	2			1						
専門科目	ビジネス・インキュベーション特論Ⅰ	1・2前	2			1						
	ビジネス・インキュベーション特論Ⅱ	1・2後	2			1						
	データ・サイエンス特論Ⅰ	1・2前	2			1						
	データ・サイエンス特論Ⅱ	1・2後	2			1						
	インフラ・サービス特論Ⅰ	1・2前	2			1	1					1
	インフラ・サービス特論Ⅱ	1・2後	2			2						1
	クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ	1・2前	2			2						
	クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ	1・2後	2			1	1					
	コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ	1・2前	2			1	1					
	コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ	1・2後	2			1	1					
	コンピュータ・ネットワーク特論Ⅰ	1・2前	2			1						
	コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ	1・2後	2			1						
	デジタル・デザイン特論Ⅰ	1・2前	2			1						
	デジタル・デザイン特論Ⅱ	1・2後	2			1						
ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅰ	1・2前	2			1							
ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅱ	1・2後	2			1							
研究指導科目	情報連携研究指導Ⅰ	1前	2			13	4					
	情報連携研究指導Ⅱ	1後	2			13	4					
	情報連携研究指導Ⅲ	2前	2			13	4					
	情報連携研究指導Ⅳ	2後	2			13	4					

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

・学生の履修の利便性を考慮し、専門科目の配当年次を「1・2①～④」から「1・2前」「1・2後」に変更（コア開講からセメスタ開講に変更）。
 ・学生の学修成果を段階的に把握するため、研究指導科目の配当年次を「1通」「1・2通」から「1前」「1後」「2前」「2後」に変更（通年開講からセメスタ開講に変更）し、このことに伴い、「情報連携研究指導Ⅲ」及び「情報連携研究指導Ⅳ」を追加。
 ・教育内容の充実のため、「情報連携学研究法Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授8」から「教授11・准教授2」に変更。
 ・専任教員の就任年度変更のため、「クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「教授1・准教授1」に変更。
 ・専任教員の就任年度変更のため、「情報連携研究指導Ⅰ」「情報連携研究指導Ⅱ」「情報連携研究指導Ⅲ」「情報連携研究指導Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授13・准教授5」から「教授13・准教授4」に変更。

【平成30年度】

・教育内容の充実のため、「データ・サイエンス特論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1・准教授1」に変更。
 ・教育内容の充実のため、「データ・サイエンス特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1・准教授1」に変更。
 ・教育内容の充実のため、「コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1・准教授1」から「教授2・准教授1」に変更。
 ・教育内容の充実のため、「コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
 ・教育内容の充実のため、「情報連携研究指導Ⅰ」「情報連携研究指導Ⅱ」「情報連携研究指導Ⅲ」「情報連携研究指導Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授13・准教授4」から「教授15・准教授6」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 ・ 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	16 科目	0 科目	22 科目	8 科目 [2]	16 科目 []	0 科目 []	24 科目 [2]	通年科目2科目をセメスタ科目に分割したため2科目増

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{22} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 赤羽台キャンパス土地 登記手続等による修正 (30) 赤羽台キャンパス開設 による面積変更 (29) 信用面積 1,005.61㎡ 信用期間 2011/4/1～ 2041/3/31					
	校 舎 敷 地	328,547.58㎡ 328,615.58㎡ 336,410.11㎡	0㎡	0㎡	328,547.58㎡ 328,615.58㎡ 336,410.11㎡						
	運 動 場 用 地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡						
	小 計	518,123.63㎡ 518,191.63㎡ 525,986.16㎡	0㎡	0㎡	518,123.63㎡ 518,191.63㎡ 525,986.16㎡						
	そ の 他	290,230.61㎡ 290,230.82㎡ 282,259.15㎡	0㎡	0㎡	290,230.61㎡ 290,230.82㎡ 282,259.15㎡						
	合 計	808,354.24㎡ 808,422.45㎡ 808,245.31㎡	0㎡	0㎡	808,354.24㎡ 808,422.45㎡ 808,245.31㎡						
(2) 校 舎	専 用	217,407.65㎡ 217,718.73㎡ 219,247.12㎡	0㎡	0㎡	217,407.65㎡ 217,718.73㎡ 219,247.12㎡	大学全体 改修工事等による変更 (30) 赤羽台キャンパス開 設、白山新棟共用開 設に伴う変更 (29)					
	(217,407.65㎡ -217,718.73㎡ -219,247.12㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(217,407.65㎡ -217,718.73㎡ -219,247.12㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	327室 328室 333室	演 習 室	153室 157室 107室	実 験 実 習 室	403室 401室 456室	情 報 処 理 学 習 施 設	33室 14 24 (補助職員 27人)	語 学 学 習 施 設	5室 7室 (補助職員 0人)	大学全体 改修工事等による変更 (30) 赤羽台キャンパス開 設、白山新棟共用開 設、教室改修等による 変更 (29)
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		情報連携学部と共用 用途見直しによる変更 (29)				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	研究科単位での特定不能のため、 大学全体の敷 図書費には電子ジャーナル・データベース の整備費(運用は含む。)を含む。 新規採買による増(30) 完成年度については予測不可 図書・学術雑誌・電子ジャー ナル・視聴覚資料・要入数変動による 変更(29)(30) 再算出に伴い、機械・器具点数の 変更(29)			
	情報連携学 研究科	1,551,493 (350,924) +559,432 (354,399) +631,992 (367,989) (1,551,493 (350,924)) -(-826,987 (381,935)) -(-569,766 (356,737))	17,378 (5,500) 17,512 (5,529) 17,549 (5,514) 17,378 (5,500) 17,512 (5,529) 17,549 (5,514)	18,686 (18,586) 28,069 (27,422) 25,731 (25,099) 18,686 (18,586) 28,069 (27,422) 25,731 (25,099)	22,483 29,664 26,797 (22,483) (29,664) (26,797)	76,996 72,799 (76,996) (72,799)	-	-	-	-	-
	計	1,551,493 (350,924) +559,432 (354,399) +631,992 (367,989) (1,551,493 (350,924)) -(-826,987 (381,935)) -(-569,766 (356,737))	17,378 (5,500) 17,512 (5,529) 17,549 (5,514) 17,378 (5,500) 17,512 (5,529) 17,549 (5,514)	18,686 (18,586) 28,069 (27,422) 25,731 (25,099) 18,686 (18,586) 28,069 (27,422) 25,731 (25,099)	22,483 29,664 26,797 (22,483) (29,664) (26,797)	76,996 72,799 (76,996) (72,799)	-	-	-	-	-
	計	1,551,493 (350,924) +559,432 (354,399) +631,992 (367,989) (1,551,493 (350,924)) -(-826,987 (381,935)) -(-569,766 (356,737))	17,378 (5,500) 17,512 (5,529) 17,549 (5,514) 17,378 (5,500) 17,512 (5,529) 17,549 (5,514)	18,686 (18,586) 28,069 (27,422) 25,731 (25,099) 18,686 (18,586) 28,069 (27,422) 25,731 (25,099)	22,483 29,664 26,797 (22,483) (29,664) (26,797)	76,996 72,799 (76,996) (72,799)	-	-	-	-	-
(6) 図 書 館	面 積	17,498.63㎡ 17,211.03㎡ 17,821.10㎡	閱 覧 座 席 数	2,763席 2,746席 2,780席	収 納 可 能 冊 数	2,122,700冊 2,121,775冊 2,095,760冊	大学全体 改修工事等による変更(30) 白山キャンパス及び川越キャン パスの書架及び閲覧席の増減に よる変更(30) 川越キャンパスの書架増設及び閲覧 席の増設と赤羽台キャンパスの閲覧 座席数を含まないことによる変 更(29) 赤羽台キャンパス開設による面 積変更(29)				
	面 積	21,097.14㎡ 17,617.10㎡ 19,966.44㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要		野球場1面、サッカー場2面 テニスコート13面等		大学全体 新川越体育館竣工等による変更 (30) 川越体育館解体(建替え)による変 更(29)				
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体		
		教員1人当り研究費等	(千円) 532 教一授-694 准教授-641 講一師-589	(千円) 532 教一授-694 准教授-641 講一師-589	図書購入費	21,401千円	13,613千円	37,000千円	22,000千円	計画見直しに伴う変更 (30) 計画見直しに伴う変更 (29)	
	共同研究費等	80,000千円	80,000千円	設備購入費	901,073千円	6,047千円	2,564千円	5,000千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,070千円	第2年次 800千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円	学生納付金以外の維持方法の概要 手数料収入、資産運用収入等ならびに図書館からの補助金収入によって維持を図る			

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	東洋大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
大学院修士・博士前期課程 文学研究科								
哲学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	1.40	昭和27年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.50	昭和27年度	同上
日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.50	昭和27年度	同上
中国哲学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.50	昭和29年度	同上
英文学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.20	昭和31年度	同上
史学専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.49	昭和42年度	同上
教育学専攻	2	20	—	40	修士(教育学)	0.22	平成6年度	同上
英語コミュニケーション専攻	2	10	—	20	修士(英語コミュニケーション)	0.30	平成16年度	同上
社会学研究科								
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.55	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
社会心理学専攻	2	12	—	24	修士(社会心理学)	0.83	平成16年度	同上
福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会学)又は修士(社会福祉学)	0.15	平成30年度	同上
法学研究科								
私法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.20	昭和39年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
公法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.35	昭和51年度	同上
経営学研究科								
経営学専攻	2	10	—	20	修士(経営学)	0.90	昭和47年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	1.00	平成18年度	同上
マーケティング専攻	2	10	—	20	修士(マーケティング)	0.55	平成22年度	同上
理工学研究科								
生体医工学専攻	2	18	—	36	修士(理工学)	0.63	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100
応用化学専攻	2	12	—	24	修士(理工学)	0.87	平成26年度	同上
機能システム専攻	2	15	—	30	修士(理工学)	0.70	平成26年度	同上
電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士(理工学)	0.67	平成26年度	同上
都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士(工学)	0.68	平成26年度	同上
建築学専攻	2	14	—	28	修士(工学)	0.85	平成26年度	同上

大学の名称	東洋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
工学研究科									
機能システム専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	埼玉県川越市鯉井2100	平成26年度より学生募集停止
バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
情報システム専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経済学研究科									
経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	1.05	昭和51年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公民連携専攻	2	30	—	60	修士(経済学)	0.65	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号 東京都千代田区大手町2丁目2番1号	
国際学研究科									
国際地域学専攻	2	15	—	30	修士(国際地域学)	0.66	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際観光学研究科									
国際観光学専攻	2	15	—	30	修士(国際観光学)	0.53	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際地域学研究科									
国際地域学専攻	2	—	—	—	修士(国際地域学)	—	平成13年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
国際観光学専攻	2	—	—	—	修士(国際観光学)	—	平成17年度	同上	平成30年度より学生募集停止
生命科学研究科									
生命科学専攻	2	20	—	40	修士(生命科学)	1.27	平成13年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)	0.85	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科									
生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉学)又は修士(保育学)	0.70	平成30年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康スポーツ学)	0.20	平成30年度	同上	
人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境デザイン学)	0.10	平成30年度	同上	

大学の名称	東洋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
福祉社会デザイン研究科 社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(ソーシャルワーク)	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)又は修士(社会福祉学)	—	平成18年度	同上	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(健康デザイン学)	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	2	—	—	—	修士(人間環境デザイン学)	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科 バイオ・ナノサイエンス融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオ・ナノサイエンス融合)	0.45	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科 総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	0.93	平成28年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科 食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.95	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科 情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.15	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学院博士後期課程 文学研究科									
哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	昭和29年度	同上	
日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和29年度	同上	
中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	平成11年度	同上	
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和39年度	同上	
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	平成11年度	同上	
教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.33	平成11年度	同上	
英語コミュニケーション専攻	3	5	—	15	博士(英語コミュニケーション)	0.13	平成19年度	同上	

大学の名称	東洋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
社会学研究科									
社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.11	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.46	平成18年度	同上	
法学研究科									
私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.13	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.20	平成12年度	同上	
経営学研究科									
経営学専攻	3	5	—	15	博士(経営学)	0.20	平成11年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	3	5	—	15	博士(経営学)または 博士(会計・ファイナンス)	0.40	平成22年度	同上	
マーケティング専攻	3	3	—	9	博士(マーケティング)	0.00	平成24年度	同上	
理工学研究科				0					
生体医工学専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.22	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
応用化学専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.11	平成26年度	同上	
機能システム専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.00	平成26年度	同上	
電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.33	平成26年度	同上	
建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.00	平成26年度	同上	
工学研究科									
機能システム専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生募集停止
バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
情報システム専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成17年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経済学研究科									
経済学専攻	3	3	—	9	博士(経済学)	0.55	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際学研究科									
国際地域学専攻	3	5	—	15	博士(国際地域学)	0.40	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際観光学研究科									
国際観光学専攻	3	3	—	9	博士(国際観光学)	0.66	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	

大学の名称	東洋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
国際地域学研究科									
国際地域学専攻	3	—	—	—	博士(国際地域学)	—	平成15年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
国際観光学専攻	3	—	—	—	博士(国際観光学)	—	平成23年度		平成30年度より学生募集停止
生命科学研究科									
生命科学専攻	3	4	—	12	博士(生命科学)	0.50	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	1.00	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科									
ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学)又は博士(健康スポーツ学)	1.00	平成30年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
人間環境デザイン専攻	3	4	—	12	博士(人間環境デザイン学)	0.00	平成30年度	同上	
福祉社会デザイン研究科									
社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年度より学生募集停止
ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(健康デザイン学)	—	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	平成30年度より学生募集停止
人間環境デザイン専攻	3	—	—	—	博士(人間環境デザイン学)	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科									
バイオ・ナノサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナノサイエンス融合)	0.58	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科									
総合情報学専攻	3	3	—	9	博士(情報学)	2.66	平成30年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科									
食環境科学専攻	3	3	—	9	博士(食環境科学)	2.00	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	

大学の名称	東洋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開設 年度	所在地	
文学部 第1部									
哲学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.15	昭和24 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.18	平成25 年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	昭和24 年度	同上	平成25年度より学生募集停止
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	昭和24 年度	同上	平成25年度より学生募集停止
日本文学文化学科	4	133	—	532	学士 (文学)	1.11	平成12 年度	同上	
英米文学科	4	133	—	532	学士 (文学)	1.11	昭和24 年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	平成12 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
史学科	4	133	—	532	学士 (文学)	1.03	昭和24 年度	同上	
教育学科						1.01	昭和39 年度	同上	
人間発達専攻	4	100	—	400	学士 (教育学)	1.05	平成20 年度	同上	
初等教育専攻	4	50	—	200	学士 (教育学)	0.95	平成20 年度	同上	
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.19	平成29 年度	同上	
経済学部 第1部									
経済学科	4	250	—	1000	学士 (経済学)	1.10	昭和25 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際経済学科	4	183	—	732	学士 (経済学)	1.13	平成12 年度	同上	
総合政策学科	4	183	—	732	学士 (経済学)	1.12	平成12 年度	同上	
経営学部 第1部									
経営学科	4	316	—	1264	学士 (経営学)	1.09	昭和41 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
マーケティング学科	4	150	—	600	学士 (経営学)	1.14	昭和41 年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士 (経営学)	1.09	平成18 年度	同上	
法学部 第1部									
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.11	昭和31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.13	昭和40 年度	同上	
社会学部 第1部									
社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.11	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会文化システム学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.09	平成12 年度	同上	
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.13	平成12 年度	同上	
社会心理学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.08	平成12 年度	同上	
社会福祉学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.06	平成4 年度	同上	

大学の名称	東洋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称 号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
理工学部									
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.04	昭和36 年度	埼玉県川越市鯨井2100	
生体医工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.04	平成21 年度	同上	
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.11	昭和36 年度	同上	
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.03	昭和36 年度	同上	
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.06	昭和37 年度	同上	
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.14	昭和37 年度	同上	
国際地域学部									
国際地域学科						—	平成9 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	平成13 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
国際学部									
グローバル・イノベーション 学科	4	100	—	400	学士(グローバル イノベーション学)	0.99	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域学科						1.02	平成29 年度	同上	
国際地域専攻	4	210	—	840	学士 (国際地域学)	1.03	平成29 年度	同上	
地域総合専攻	4	80	—	320	学士 (国際地域学)	1.01	平成29 年度	同上	
国際観光学部									
国際観光学科	4	366	—	1464	学士 (国際観光学)	1.03	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
生命科学部									
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.01	平成9 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁 目1番1号	
応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.03	平成21 年度	同上	
食環境科学科	4	—	—	—	学士 (生命科学)	—	平成21 年度	同上	平成25年度より学生募 集停止
ライフデザイン学部									
生活支援学科						1.07	平成17 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.13	平成21 年度	同上	
子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	1.00	平成21 年度	同上	
健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.04	平成17 年度	同上	
人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン 学)	1.14	平成18 年度	同上	
総合情報学部									
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.14	平成21 年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学部									
食環境科学科						1.09	平成25 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁 目1番1号	
フードサイエンス専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.07	平成25 年度	同上	
スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.12	平成25 年度	同上	
健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	平成25 年度	同上	

大学の名称	東洋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
情報連携学部									
情報連携学科	4	400	—	1600	学士 (情報連携学)	1.02	平成29年度	東京都北区 赤羽台1丁目7番11号	
文学部 第2部									
東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士 (文学)	1.13	平成25年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成25年度より学生募集停止
インド哲学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	昭和31年度	同上	
日本文学文化学科	4	50	—	200	学士 (文学)	1.15	昭和27年度	同上	
教育学科	4	40	—	160	学士 (教育学)	1.05	昭和39年度	同上	
経済学部 第2部									
経済学科	4	150	—	600	学士 (経済学)	1.07	昭和32年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学部 第2部									
経営学科	4	110	—	440	学士 (経営学)	1.05	昭和41年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
法学部 第2部									
法律学科	4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	昭和31年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会学部 第2部									
社会学科	4	130	—	520	学士 (社会学)	1.09	昭和34年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会福祉学科	4	45	3年次 10	200	学士 (社会学)	0.98	平成13年度	同上	
通信教育部									
文学部									
日本文学文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	昭和39年度		平成30年度より学生募集停止
法学部									
法律学科	4	—	—	—	学士 (法学)	—	昭和41年度		平成30年度より学生募集停止

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(A C対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・A C対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報連携学研究所 情報連携学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	花木 啓祐 (64) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅳ インフラ・サービス特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
		後藤 尚弘 (50) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅲ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	教授	井村 亮 (64) <平成29年4月> ビジネス・インキュベーション特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	教授	坂村 健 (64) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ
専	教授	土屋 雅義 (62) <平成29年4月> デジタル・デザイン特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	教授	横田 達也 (60) <平成29年4月> クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	教授	中村 光宏 (58) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ デジタル・デザイン特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ

【平成29年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	花木 啓祐 (65) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅳ インフラ・サービス特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		後藤 尚弘 (51) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅲ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	井村 亮 (65) <平成29年4月> ビジネス・インキュベーション特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	坂村 健 (65) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	土屋 雅義 (63) <平成29年4月> デジタル・デザイン特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	横田 達也 (61) <平成29年4月> クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	中村 光宏 (59) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ デジタル・デザイン特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授 (研究科長)	花木 啓祐 (66) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅳ インフラ・サービス特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		後藤 尚弘 (52) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅲ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	井村 亮 (66) <平成29年4月> ビジネス・インキュベーション特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	坂村 健 (66) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携学研究法Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	土屋 雅義 (64) <平成29年4月> デジタル・デザイン特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	横田 達也 (62) <平成29年4月> クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	中村 光宏 (60) <平成29年4月> 情報連携学研究法Ⅰ デジタル・デザイン特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	教授	神場 知成 (54) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅰ ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
		小笠原 武史 (50) ＜平成29年4月＞ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	教授	曾根 真理 (50) ＜平成29年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
		渡邊(寺田) 朗子 (49) ＜平成30年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅱ
兼任	講師	渡邊(寺田) 朗子 (49) ＜平成29年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅱ
		富田 亜紀 (48) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ ビジネス・インキュベーション特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	教授	中村 周吾 (47) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ データ・サイエンス特論Ⅰ データ・サイエンス特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
		吉越 健治 (42) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ コンピュータ・ネットワーク特論Ⅰ コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	教授	神場 知成 (55) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅰ ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		小笠原 武史 (51) ＜平成29年4月＞ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	曾根 真理 (51) ＜平成29年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		渡邊(寺田) 朗子 (50) ＜平成30年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅱ
兼任	講師	渡邊(寺田) 朗子 (50) ＜平成29年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅰ
		富田 亜紀 (49) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ ビジネス・インキュベーション特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	中村 周吾 (48) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ データ・サイエンス特論Ⅰ データ・サイエンス特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		吉越 健治 (43) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ コンピュータ・ネットワーク特論Ⅰ コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	教授	神場 知成 (56) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅰ ユーザ・エクスペリエンス・デザイン特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		小笠原 武史 (52) ＜平成29年4月＞ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	曾根 真理 (52) ＜平成29年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		渡邊(寺田) 朗子 (51) ＜平成30年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅱ
専	教授	富田 亜紀 (50) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ ビジネス・インキュベーション特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		中村 周吾 (49) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ データ・サイエンス特論Ⅰ データ・サイエンス特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	教授	吉越 健治 (44) ＜平成29年4月＞ 情報連携学研究法Ⅰ コンピュータ・ネットワーク特論Ⅰ コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
		清水 徹 (59) ＜平成30年4月＞ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	川本 清美 (44) ＜平成29年4月＞ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	准教授	加知 範康 (41) ＜平成30年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅰ
専	准教授	平松(高山) あい (39) ＜平成29年4月＞ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	准教授	別所 正博 (35) ＜平成29年4月＞ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	准教授	矢代 武嗣 (33) ＜平成29年4月＞ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	准教授	Khan M. Fahim Ferdous (32) ＜平成29年4月＞ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	川本 清美 (45) ＜平成29年4月＞ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	加知 範康 (42) ＜平成30年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅰ
専	准教授	平松(高山) あい (40) ＜平成31年4月＞ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	准教授	別所 正博 (36) ＜平成29年4月＞ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	矢代 武嗣 (34) ＜平成29年4月＞ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	Khan M. Fahim Ferdous (33) ＜平成29年4月＞ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	教授	川原 亮一 (51) ＜平成30年4月＞ コンピュータ・ネットワーク特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	川本 清美 (46) ＜平成29年4月＞ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	加知 範康 (43) ＜平成30年4月＞ インフラ・サービス特論Ⅰ
専	准教授	平松(高山) あい (41) ＜平成31年4月＞ クオリティ・オブ・ライフ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ
専	准教授	別所 正博 (37) ＜平成29年4月＞ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅰ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	矢代 武嗣 (35) ＜平成29年4月＞ コンピュータ・アーキテクチャ特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携学研究法Ⅰ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	Khan M. Fahim Ferdous (34) ＜平成29年4月＞ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	石川 知一 (37) ＜平成30年4月＞ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ
専	准教授	本多 泰理 (40) ＜平成30年4月＞ データ・サイエンス特論Ⅰ データ・サイエンス特論Ⅱ 情報連携研究指導Ⅰ 情報連携研究指導Ⅱ 情報連携研究指導Ⅲ 情報連携研究指導Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	柳原 正実 (29) <平成29年4月>
		インフラ・サービス特論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	柳原 正実 (30) <平成29年9月>
		インフラ・サービス特論Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

・一身上の都合により、平松（高山）あい准教授の就任が平成29年4月から平成31年4月に遅延。

【平成30年度】

・平成30年4月、清水徹教授、川原亮一教授、本多泰理准教授、石川知一准教授が新たに内部審査を経て大学院担当として追加。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
14	6	0	0	20	16	7	0	0	23	16	7	0	0	23
(13)	(4)	(0)	(0)	(17)						[2]	[1]	[0]	[0]	[3]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
18	0	2			21	0	2			21	0	2		
(17)	(0)	(0)								[3]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{23}{20} = \boxed{115.00} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況（B）}} = \frac{3}{23} = \boxed{13.04} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由							
1	准教授	平松（高山） あい	選択	クオリティ・オブ・ライフ特補Ⅱ	①	一身上の都合により、平成29年度着任予定を、平成31年度着任に変更（29）							
			必修	情報連携研究指導Ⅰ	③								
			必修	情報連携研究指導Ⅱ	③								
合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）							
1	人	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	1	科目	計	0	科目	計	2	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
		該当なし											
合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）							
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）							
1	人	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	1	科目	計	0	科目	計	2	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{20} = \boxed{5.00} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当無し								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

修士課程の完成年度までの着任は間に合わないが、講義科目は他の教員の代替が可能であり、また、研究指導については同分野の教員が着任しているため、教育・研究の遂行については支障がないと判断している。
 学生への周知については、教育課程についての変更はなく、学生には着任した教員のみを周知しているため、特段、就任年度の変更を学生には周知していない。(29)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区分	留意事項等		履行状況	未履行事項についての実施計画
設置時 (29年4月)	・文学部日本文学文化学科（通信教育課程）及び法学部法律学科（通信教育課程）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	留意事項	・文学部日本文学文化学科（通信教育課程）及び法学部法律学科（通信教育課程）の定員未充足の改善に向けて取り組んできたが、留意事項に則り、入学定員の見直しについて検討した結果、両学科ともに募集停止することとした。なお、平成28年12月6日付で、文部科学大臣に報告を行い、平成28年12月8日に募集停止に関する情報の公開を行った。(29)	履行済
設置時 (29年4月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	留意事項	・本研究科の基礎となる学部の平成30年度新規専任教員のうち、教授2名・准教授2名を内部審査を経て大学院担当とし、年齢構成のバランスを図った。(30) ・本研究科の基礎となる学部の若手専任教員を、内部審査を経て大学院担当とすることで、教員組織の年齢を整えていく予定である(29)	履行済
設置計画履行状況調査時 (30年2月)	・文学部第1部国際文化コミュニケーション学科の入学定員超過の改善に努めること。	改善意見	・平成29年度入学定員の超過に至る経緯の検証に基づき、平成30年度においては、入学定員超過率を1.03とし、是正に努めた。	履行済
設置計画履行状況調査時 (30年2月)	・食環境科学研究科食環境科学専攻（M）において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。	改善意見	当該博士前期課程の基礎学部である食環境科学部との連携を考慮した上で、本研究科の教育課程及び研究指導上、必要な教員の研究分野、教育、研究実績等を勘案し、教育研究の継続性に支障のないよう教員補充を行うこととしている。平成30年度は、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員比率を、25%（平成29年度）より16%へ改善した。引き続き、教員組織編成の年齢バランスを考慮し、教員補充を進めていく。	履行済
設置時 (29年4月)	・文学部日本文学文化学科（通信教育課程）及び法学部法律学科（通信教育課程）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	留意事項	・文学部日本文学文化学科（通信教育課程）及び法学部法律学科（通信教育課程）の定員未充足の改善に向けて取り組んできたが、留意事項に則り、入学定員の見直しについて検討した結果、両学科ともに募集停止することとした。 なお、平成28年12月6日付で、文部科学大臣に報告を行い、平成28年12月8日に募集停止に関する情報の公開を行った。	履行済
設置時 (29年4月)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	留意事項	・本研究科の基礎となる学部の平成30年度新規専任教員のうち、教授2名・准教授2名を内部審査を経て大学院担当とし、年齢構成のバランスを図った。(30) ・本研究科の基礎となる学部の若手専任教員を、内部審査を経て大学院担当とすることで、教員組織の年齢を整えていく予定である(29)	履行済

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<情報連携学研究科 情報連携学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD活動に関しては、平成19年4月より、「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長には副学長を充て、委員会はセンター長を委員長として、各学部・研究科から1名の委員を選出し構成してきた。

平成27年4月には、職員を構成員に含め、教職協働によるFD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程上でも明確にした。

平成29年4月からは、これまでの「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。

具体的には、①SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教員の資質向上に向けて取り組んでいる。

なお、委員会の委員の構成については、従来の組織体制に加え、平成29年度よりさらに高等教育推進センター専属スタッフのセンター員を加えた形で全学的なFD組織として活動しており、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と有機的な連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全体委員会は年6回程度開催しており、規程上、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員、センター員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年3～5回程度開催している。

情報連携学研究科では、教育研究に関する連絡・調整についてはICTを活用することを徹底するとともに、そのことにより、毎回の研究科委員会、代議員会では、教育研究の高度化に関することを中心に議論している。

c 委員会の審議事項等

- ・委員会の年次活動計画について
- ・部会の設置と各委員の配属について
- ・各種FD・SD企画の開催について
- ・規程の改正について 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチングアシスタント）FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成29年4月15日、19日開催 参加者：162名（TA, SA）

○ 新任教員FD研修会

・講演及びワークショップ形式

平成29年7月8日 参加者：54名

○ GPA活用セミナー

・講演形式

平成29年12月2日 参加者：50名

○ 障がい学生支援に関する講演会

・講演形式

平成30年1月25日 参加者：35名

○ FDワークショップ

・講演及びワークショップ形式

平成30年2月23日 参加者：34名

○ 英語で行うためのFD研修会

・ワークショップ形式

平成30年3月13日 参加者：17名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部、研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部、研究科では、さらに独自のFD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有するとともに、毎年、各学部、研究科ごとにFD活動報告書を作成し、それらを取りまとめて「東洋大学FD活動報告書」を作成している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするとともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29年度からは、実施方法をWEBに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。

また、実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業の分かりやすさ」「授業運営」「学習成果」「授業の難易度と進捗」に分類したカテゴリごとの改善必要度を明らかにした教員個人の結果表を各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。

（URL：<http://www.toyo.ac.jp/site/fd/46570.html>）

また、学生への公開については、平成29年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見を同システム上に入力することとなっており、当該科目の履修学生はその所見についても確認できる仕組みとなっている。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙参照

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年5月11日（金）

b 公表方法

・上記のいずれもホームページにて公表

<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

③ 認証評価を受ける計画

・平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価・機関別認証評価）を受審し、平成27年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、大学基準協会及び本学のホームページにて公表済み。

平成26年度の認証評価の際の指摘事項については、平成27年度中に改善に取り組み、平成30年7月末までに改善報告書を提出予定である。

次期の大学評価（認証評価・機関別認証評価）の受審は2021年度を予定している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有 無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (2018年 5月 31日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

(別紙) ①設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科修士課程の人材の養成に関する目的は以下のとおりである。

学部の新卒者のみならず、すでにある程度の専門性を取得して実社会で活躍する社会人に対しても門戸を広く開き、社会人の再教育機関としての役割も備える新しい教育機会を整備する。現在の社会において最も革新の速度が速い情報技術の分野に対応するために、8つの情報技術の基礎ディシプリン（①ビジネス・インキュベーション、②データ・サイエンス、③インフラ・サービス、④クオリティ・オブ・ライフ、⑤コンピュータ・アーキテクチャー、⑥コンピュータ・ネットワーク、⑦デジタル・デザイン、⑧ユーザ・エクスペリエンス・デザイン）にかかわる最先端の研究開発を行う研究者の養成とともに、それらディシプリンの連携を図る情報連携学の実践を行い、社会にイノベーションをもたらす専門的職業人を養成する。

本研究科は、平成 29 年度に基礎となる学部である情報連携学部と同時に開設したため、平成 33 年度までは情報連携学部の新卒者がいないことから、当面の間、社会人の再教育機関としての役割を中心に担うこととしている。

そのため、初年度より、情報連携学に関係する分野の業務経験者を対象とした入学試験制度の実施や、入学後の時間割編成上の配慮、長期履修制度や短期修了制度の導入などを進めてきた。また、平成 29 年度については、秋入学のための入学試験の実施、社会人のみを対象とした説明会の開催、また派遣元の企業の役員や人事責任者を対象とした懇談会を実施し、社会人の受入を推進してきた。

その結果として、現在の在学学生 6 名はすべて企業に在籍している社会人であり、すでにある程度の専門性を取得して実社会で活躍している学生を集めることができている。また、平成 29 年度には、本学での教育研究が、学生を派遣している企業と本学との共同研究に発展しているケースもあり、情報連携学の社会への実践も進められている。

しかし、学生確保の点では、平成 29 年度、30 年度の両年度とも入学者は 3 名、定員充足率は 0.15 と、学生を十分に集めることができていない。これは平日の昼間 2 日程度の通学が必要という時間割編成上の問題とともに、本人の業務の調整や、派遣元の企業において社内の調整に期間を要し、実施した懇談会、説明会開催時からでは入学試験の出願日程に間に合わなかったという原因があげられる。

この点については、今後はより早期に、社会人に特化した学生募集活動や入試制度改革を行っていくとともに、現在、情報連携学部及び情報連携学研究科は、IoT や AI の分野で産業界等から多くの注目を集めており、多くの企業、組織、団体から連携の可能性を打診、

相談されている。このことから、これらの企業等との連携事業や連携体制を推進、強化したり、情報連携学における研究成果を世に広めていくことによって、より多くの企業、組織、団体が本研究科に学生を派遣しやすい環境を整えていくこととする。

教育課程の編成については、共通科目として履修する必修科目が 4 科目、学生個人の研究テーマに合わせて履修する専門科目が前述の情報技術の基礎ディシプリンに沿って 8 分野 16 科目、論文執筆のために履修する研究指導科目が 4 科目の全 24 科目で構成され、平成 29 年度、30 年度ともに全 24 科目を開講している。

また、時間割については、企業から派遣されている社会人学生が、前述したように週 2 日程度の本学への通学で、勤務を続けながら本研究科での研究活動の従事が可能となるように編成している。この時間割については、教育研究の質を鑑み、現状で適切な教育成果を上げているものと判断している。

教員組織については、本研究科の基礎となる情報連携学部に平成 30 年度にあらたに着任する専任教員のうち、教授 2 名、准教授 2 名を、内部審査を経て新たに本研究科の担当に追加した。このことにより、講義科目の内容や研究指導の分野がより一層充実するとともに、専任教員の年齢構成のバランスが向上している。

教育方法、履修指導、研究指導については、平成 29 年度中に、研究科委員会及び代議員会において、研究科としての研究指導計画を精査し、より具体的な指導内容や指導方法、審査基準等を策定するとともに、平成 30 年 1 月 9 日には、研究科初めての修士研究の進捗報告会を実施した。進捗報告会では、修士 1 年次の研究の進展と修士研究とりまとめの方向性について討議が行われた。

最後に、施設、設備の整備については、情報連携学研究科のある赤羽台キャンパスは平成 29 年 1 月に完成しており、大学院生が使用する共同研究室のほか、ICT 技術を駆使したものづくりのためのラボ、学生の個別学習、グループ学習が可能なメディアセンター、教員室、コミュニティスペースが完備されている。

また、赤羽台キャンパスは、最先端の IoT 技術によって、様々な施設・設備がネットワークに接続された未来のキャンパスであり、設備や機器が API (Application Programming Interface) を提供することで、キャンパス全体が、情報連携学研究科の教育研究を実現させるために設計されており、大学院生の教育研究にも活用されている。

これらのことから、現時点では、本研究科の設置の趣旨・目的についてはおおむね達成できていると判断できる。